

## 今月の表紙「ミツバ」

香味野菜の「ミツバ」は春から夏にかけてが旬とされます。その独特な香りと鮮やかな緑色は、お椀や丼物などの日本料理で欠かせないもの。暑さを増すこれからの季節、衰えがちな食欲を刺激してくれる名脇役です。

## Contents

### 01 巻頭言

萩原敏孝「悲観論からの脱出」

### 02 特集

#### 2009年度 代表幹事所見・通常総会

### 12 リレートーク

林野 宏「バブルと覇権のマーケティング」

### 13 委員長インタビュー

サービス産業の生産性向上委員会 北山禎介  
科学技術・イノベーション立国委員会 篠塚勝正  
社会的責任経営委員会 岩田彰一郎  
雇用問題検討委員会 佐藤龍雄

### 17 経済同友最前線

サービス産業の生産性向上委員会 提言  
「サービス産業の生産性を高める  
3つの改革」

科学技術・イノベーション立国委員会 提言  
「イノベーション志向経営の  
更なる実現に向けて」

社会的責任経営委員会 提言  
「今こそ企業家精神あふれる  
経営の実践を」

企業経営委員会 パネル・ディスカッション  
「金融危機の向こうにあるもの」

雇用問題検討委員会 第1次意見書  
「経済危機下における  
雇用と生活の安心確保」

### 26 新入会員紹介

2009年4月17日現在の入退会者

### 28 同友会スケッチ

2009年4月の記録と6月の予定

### 30 私の思い出写真館

立石文雄「カナダ社員とのチームワーク作り」



副代表幹事  
アジア委員会委員長

**萩原 敏孝**

小松製作所 相談役・特別顧問

## 悲観論からの脱出

日本経済も世界経済も底が見えない、先が見えない、という。しかし考えてみれば、さかのぼること二年前、誰が今日の世界的大不況を見通していたのか。世界中で誰も先が見えなかった、ということになる。

長い歴史からみれば、時代の変革期には、先が見えないのが常態で、「見えていた」というのは、ほとんどの場合後付けの検証にすぎない。従って、「見えない」ことで悲観的になることはない。悲観論から明るい未来は生じない。大事なことは奈落の底には先がある、新世界がある、ということである。どのような社会がやってくるのか、大局的に見極め、次なる世界のニーズを先取りして自ら行動を起こすことが大切である。「危機はチャンスだ」、「千載一遇の好機」と口で言いながら、その実、身を縮め、支出を切りつめ、ただひたすら米国、中国の景気回復を心待ちにしているも始まらない。

わが国では、少子高齢化社会に向けた政府の対応にスピード感のないことが、経済危機のさなか、国民の将来に対する不安を一段と増幅させているが、目を世界に転じれば、人口は爆発的に増加しつつある。一年に約一億人ほど増え続け、2050年には90億人を超えるという。食料・水の絶対的な不足。化石エネルギー源の枯渇。待ったなしの地球規模での環境対応。この中でどのようにしたら、これらの人たちに食と安定した生活基盤を提供できるというのか。この近未来の現実を踏まえれば、食糧の抜本的な増産、水資源の確保と効率活用、新エネルギーの開発、省エネルギー、原子力の活用促進、開発国・途上国の社会インフラの整備、低炭素社会の早期実現など必須の課題がめじろ押しである。別の見方をすれば世界には膨大な市場が埋まっていることになる。日本にとっても、これら課題の多くは、わが国の産業構造改革の主要なテーマであり、また成長戦略の大きな柱でもある。

日本にはこれら広範囲な分野について、世界に先行する技術がある、世界に貢献できる潜在力がある、と言われている。われわれは、夢をもって、自ら考え抜いて、これらのテーマに積極的に挑戦していく必要がある。果報はただ待っている者には縁がない。もし政府がこれら地球的課題について、わが国にある個々の力を束ねて、世界が目を見張るような大胆な国家戦略を策定し、併せて受益と負担を明確にした将来に希望の持てる社会像を提示するならば、それこそまさにわが国の「あるべき姿」そのものであり、われわれの挑戦に大きな勇気を与えることになる。